

関東大震災 遺構マップ

※裏面に遺構等の一覧を掲載しております。



関東大震災100年
幾多の災害を乗り越えてきた東京
備えよう、明日の防災

関東大震災の記憶を
後世に伝えるものを
災害遺構として掲載し
ています。災害教訓の
継承や地域の防災意
識の啓発、防災学習に
ご活用ください。

発行/台東区総務部危機・災害対策課(令和5年8月)

復興公園

- ① 柳北
- ② 東盛
- ③ 千束
- ④ 西町
- ⑤ 石浜
- ⑥ 精華
- ⑦ 玉姫
- ⑧ 山伏
- ⑨ 松葉
- ⑩ 御徒町
- ⑪ 金杉
- ⑫ 小島
- ⑬ 金竜
- ⑭ 富士
- ⑮ 田原
- ⑯ 隅田

詳しい位置情報は
下記二次元コード
から確認できます。



Google map
「台東区内関東大震災遺構所在地」

道路・区画整理・橋梁

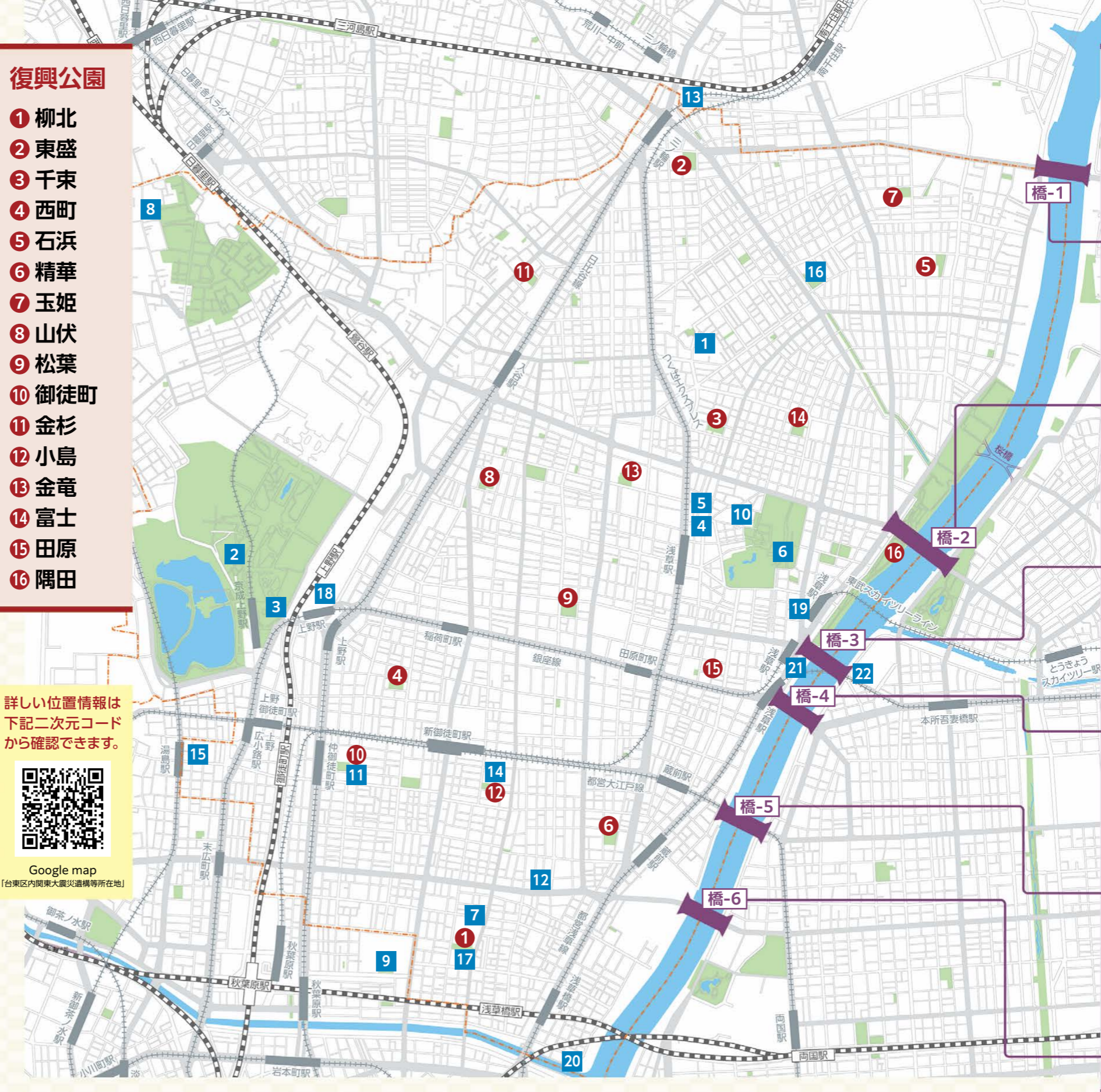
関東大震災からの復興のための区画整理事業は、帝都復興土地区画整理事業と呼ばれ、台東区では谷中地域と上野公園のほか、根岸地域の大部分を除いたほとんどの地域が事業対象となりました。明治期の区画整理が進まない中で、震災復興を契機とし、昭和通り、蔵前橋通りなど、江戸期の町割を活かしながらも、道路を延焼遮断帯とした街並みの骨格となりました。桜橋を除く隅田川にかかる橋脚は、鉄橋に架け替えられ現在にも引き継がれています。

関東大震災をもっと知ろう!

台東区では、「たいとう 関東大震災100年事業」と銘打って、パネル展や各種イベントの実施のほか、関東大震災に関するリーフレットも作成します。詳しくは、右の二次元コード「たいとう 関東大震災100年事業特設ページ」をご覧ください。

たいとう関東大震災100年事業特設ページ

区内の復興橋



関東大震災とは

大正12年(1923)9月1日午前11時58分、相模湾北西部を震源とするマグニチュード7.9と推定される関東大震災が発生しました。大きな余震も続き、死者・行方不明者約10万5,000人に及び、甚大な被害をもたらしました。当日は昼の調理時間帯と重なったことから多くの火災が発生し、また、台風通過による強風で延焼が拡大し、東京市では約30万世帯が焼失しました。台東区でも死者・行方不明者約4,500名、倒壊・焼失家屋9万3,000世帯となり、浅草区では約93%が焼失しました。上野公園には一時約50万人が避難し、その後、園内や不忍池周辺には避難施設が立ち並びました。

帝都復興事業とは

復興事業を担う機関として「帝都復興院」が設立されました。帝都復興院の総裁には、内務大臣の後藤新平(元東京市長)が就任した。後藤は以前から都市計画に関わっており、市長在任中の東京改造プランをもとに、復興計画が作成されました。帝都復興計画は当初の見込みから大幅に縮小されましたが、近代的な都市計画手法を初めて取り入れるなどの成果を残しました。この復興計画に基づき、道路、ごみ処理、社会事業施設、教育、上下水道、住宅、電気・ガス、港湾、河川、公園、葬祭場、市場、公会堂など、多くがわずか6年間に整備され、今日につながる社会資本が整備されました。

復興公園・復興小学校

帝都復興計画により、不燃化構造のコンクリート建築で、ガスや電灯、水道などの設備を完備する近代的な小学校舎が東京市内で117校建設されました。これらの復興小学校の一部には、隣接して復興小公園が52か所整備され、避難場所としての機能を持ちました。台東区では復興小学校が33校、改築小学校が1校建設され、復興小公園が15か所整備されました。また、復興大公園(三大公園)として、隅田公園、浜町公園、錦糸公園の3か所が東京市内に整備されました。台東区側の隅田公園には、当時からスポーツ施設や児童の遊び場があり、今も開設当時と同等の機能を有しています。

めぐりん路線図
めぐりん時刻表

台東区内関東大震災遺構等所在地

区内には、関東大震災の惨禍を後世に伝えるための遺構や、復興事業の一環として建設された復興小学校などがあります。災害に対する備えを見直す機会として、訪れてみてはいかがでしょうか。

1 吉原観音

(千束3-22)

当時あった弁財池で、火災から逃げた遊女をはじめ、490名が亡くなった。地元の方が供養碑を建立し、今も毎年、供養が続いている。



2 上野大仏

(上野公園4-8)

江戸時代初期に寛永寺の境内に釈迦如来坐像の大仏を建立。震災の影響で、頭部が落下した。現在も顔面部分がレリーフ状となって大仏山に安置されている。



3 西郷隆盛像

(上野公園1)

上野公園は焼失を免れたため、西郷隆盛像には安否確認の張り紙が多数張り付けられた。また近くには避難所を視察に来た摂政宮行幸記念碑がある。



4 浅草凌雲閣記念碑

(浅草2-14-5)

凌雲閣は、当時の日本で一番高い建築物であり、日本初の電動式エレベーターが設置された。



5 浅草凌雲閣跡地

(浅草2-13-10)

凌雲閣が建てられた場所で、レンガ造基礎が2018年2月工事中に発見されたため、それを記念して「浅草公園凌雲閣登覧寿語六」絵図を拡大して壁面に表示し、その下に発見されたレンガを展示している。



6 浅草寺のイチヨウ

(浅草2-3)

震災の際、イチヨウが浅草寺本堂などへの延焼を防いだことにより、境内に5万人の人が避難して救われた。その後、東京大空襲で被災し、焼け焦げた跡が残る。



7 旧蓬萊園のイチヨウ

(浅草橋5-1-24)

震災により平戸藩上屋敷にあった大名庭園「蓬萊園」は荒廃したが、焼け残ったイチヨウは当時の面影を残す。



8 朝倉彫塑館

(谷中7-18-10)

朝倉彫塑館には谷中の大井戸と呼ばれた井戸がある。関東大震災で谷中地域が断水した際、朝倉文夫は井戸水の供給につとめた。この井戸は現在も「五典の池」の水源である。



9 防火守護地之碑

(千代田区神田和泉町1)

千代田区立和泉公園内。発災後の延焼で神田和泉町・佐久間町一帯にも火の手が迫ったが、近隣住民の協力で延焼を食い止め、関東大震災の奇跡と呼ばれた。



10 鳥獣供養碑

(浅草2-28-1(花やしき園内))

当時、花やしきは動物園としてにぎわっていたが、震災時、多くの避難者が逃げたため、やむを得ず、多くの動物を犠牲にした。それらの動物の供養のため、昭和5年建立。(入園料が必要です)



11 関東大震災復興区画整理完成記念碑



御徒町公園 (台東4-13-3)

復興事業の区画整理実施を記念した石碑

12 土地区画整理測量基準標

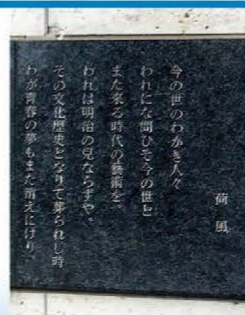


鳥越神社境内 (鳥越2-4-1)

13 浄閑寺永井荷風の「震災」碑

(荒川区南千住2-1-12)

作家の永井荷風没後4周年を記念し、昭和38年建立。荷風は遊女の「投げ込み寺」で知られる浄閑寺を慰霊のため、度々訪問していた。



14 旧小島小学校 (現 台東区中小企業振興センター)

(小島2-9-18)

昭和モダンを感じさせる丸い塔のデザインが目印。昭和3年竣工。復興小公園の小島公園に隣接。



15 黒門小学校

(上野1-16-20)

3階部分のアーチ状の窓が印象的。校庭側と周囲のデザインが異なることも特徴。昭和5年竣工。



16 東浅草小学校

(東浅草2-27-19)

装飾のないインターナショナル・スタイルを取り入れた校舎が特徴。昭和3年竣工。隣接する日本堤公園は大正3年の開園で、復興小公園ではない。



17 旧柳北小学校

(浅草橋5-1-35)

垂直の壁柱が強調され、柱状面より突出させた屋上手が特徴。大正15年竣工。復興小公園の柳北公園に隣接。



18 上野駅

レンガ造り初代上野駅は震災で全焼。現存する2代目駅舎は、駅前の昭和通りと共に、復興シンボルのひとつ。昭和7年完成。



19 東武浅草駅

震災前、東武線は墨田区吾妻橋が終点であったが、震災後、浅草に乗り入れた。左中央の建物は現存する東武浅草ビルディング。



20 柳橋

(柳橋1-1)

明治20年に鋼鉄橋となっていたが、関東大震災で焼け落ちた。永代橋のデザインをモデルに昭和4年竣工。



21 地下鉄出入口

(雷門2-20(吾妻橋交差点))

昭和2年上野~浅草間で開通した日本初の地下鉄開通当時の建築物である。



22 隅田公園

(墨田区吾妻橋1)

三大復興大公園(隅田・浜町・錦糸公園)のひとつ。墨田区側の隅田公園には、開設当時の石碑が残されている。台東区側の隅田公園には、当時からスポーツ施設や児童の遊び場があり、今も開設当時と同等の機能を有している。



災害教訓の継承

今だからできる防災・減災を図ろう

在宅避難

関東大震災当時は、耐震・耐火性が低い木造建築物が多く、延焼したこともあり、在宅避難はできませんでした。現代ではマンションをはじめ、耐震・耐火性が高い建築物が増えたため、「在宅避難」が可能です。

日常備蓄

「在宅避難」を可能にするためには、普段使っているものを常に少し多めに備える「日常備蓄」を実践しましょう。



~災害用伝言ダイヤル171を使えるように練習しましょう~

毎月1・15日、正月三が日、防災週間、防災とボランティア週間に体験利用ができます。使い方を練習するとともに、災害時の連絡方法を家族で話し合しましょう。



「たいとう関東大震災100年事業」の経費の一部に、朝日信用金庫からの寄附を活用しています